

みたけ夢だより

3月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

3月を迎えて

校長 長尾 晴美



東門で子どもたちの登下校を見守ってくれている桜の木は、開校してまもなくの頃、地域の方が「学校に桜の花があったほうがいいね」ということで植えてくださったものです。今年も冬の寒風にじっと耐えながら、少しずつ少しずつ蕾の準備をし、今は少し暖かくなった風の中で、開花の準備をしてくれているようです。

先日、前横浜高等学校硬式野球部監督であった渡辺元智氏の講演を聞く機会がありました。甲子園通算51勝を挙げ、多数のプロ野球選手を輩出された方です。「耐える」という言葉のもつイメージは、人によって様々だと思いますが、渡辺氏はそこから築く信頼関係について話をされました。最初はスパルタ方式で強引に指導していました。しかし、時代と共にそれだけでは選手の力を引き出すことが難しくなり、相手に伝わる言葉を伝えるように話していくことの必要性に突き当たったそうです。そこで大人である自分の方から一歩でも二歩でも生徒に近づくようにするなど、これまでの自分を変えていながら選手を育ててこられたそうです。言葉のもつ「味と真理」について、心から相手を思う声かけの大切さを語られていました。

学校・家庭・地域で協力して、大人が子どもの心にしっかり届くような声かけをすることで、子どもたちの忍耐力やものごとをやり抜く力など「成長の力」を育んでいきたいと思います。

今年度を振り返り、子どもたちを見守ってくださる多くの方々存在を改めて感じています。

2月に入ってからのことです。ガソリンスタンドが「かけこみ110番」として地域の安全に取り組んでいる資料と児童用ファイルを、地域の方が、新一年生用にと持ってきてくださいました。犯罪から子どもを守る緊急避難場所として対応してくださることで、安心感が生まれています。校外委員さんの尽力で110番の家の登録については毎年多くのご家庭が協力してくださっていますが、いま青葉区の町の歯医者さんでも「こども110番のはいしゃさん」の札を見かけます。児童の登下校を多くの地域の方々が見守ってくださることを本当にありがたく、心強く感じています。

一年間の締めくくりの月を迎え、これからもたくさんの目で子どもたちを見守っていただけますよう、どうぞよろしくお願い致します。